

RBL-2H3 細胞脱顆粒抑制試験

ラット好塩基球性白血球細胞 RBL-2H3 は、細胞表面に結合した IgE が抗原により架橋されることで、ヒスタミンなどを含む顆粒球を細胞外へ放出することが知られております。このような特徴から、I 型アレルギーに対する抗アレルギー作用を持つ物質のスクリーニングとしての探索研究などに広く用いられております。RBL-2H3 細胞を用いて脱顆粒に対する作用を調べます。

試験方法

RBL-2H3 細胞を抗原で刺激し、脱顆粒のモデルと致します。ここに検体を添加した際に、脱顆粒をどの程度抑制するか、顆粒中に豊富に存在するβ-ヘキソサミニダーゼの活性を測定することで脱顆粒率を算出致します。

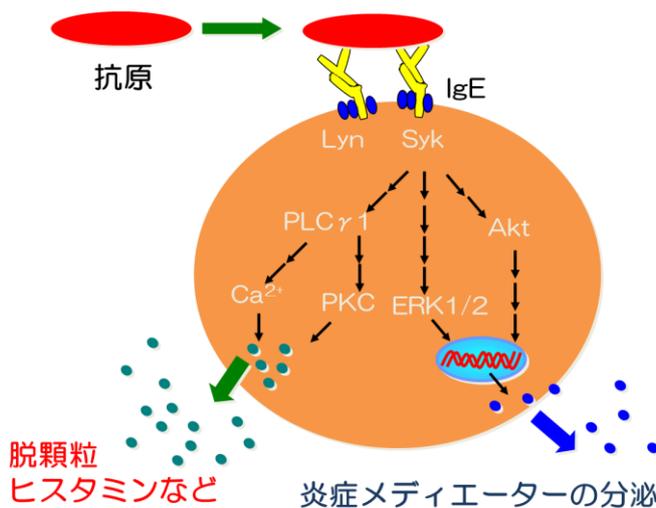


図-1 脱顆粒に至るしくみ

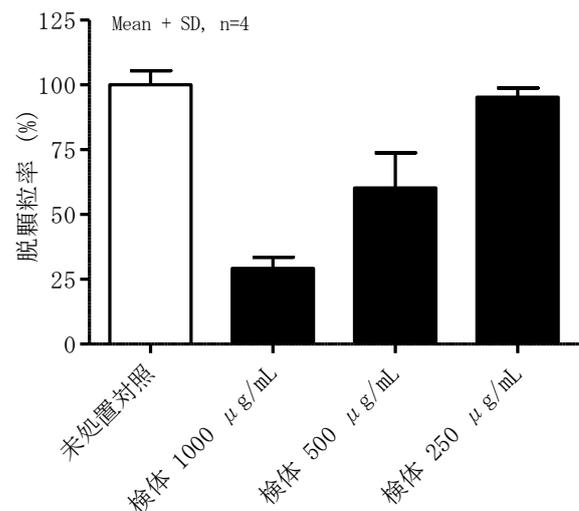


図-2 試験結果例

検体必要量

必要量：約 10 g (10 g 未満の場合はお問い合わせください。)

注意点

水に不溶の検体は試験をお受け出来ない場合がございます。また、いずれも検体数や検体の性状などにより変動致しますので、まずはお問い合わせください。

試験設計など、詳細につきましてもお気軽にご相談ください。